

## (株)西東京リサイクルセンターが 地元小学校でバイオガス発電の環境講座

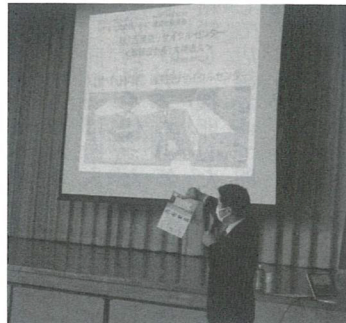
東京都羽村市で、羽村バイオガス発電所を操業する(株)西東京リサイクルセンターは、2月10日、同市の市立武蔵野小学校で4、5年生を対象にした環境出前講座を行った。同校が「総合的な学習の時間」を活用して実施している環境学習の一環として、同社取締役会長の大橋徳久氏が講師に招かれて実現したもので、大橋氏の講義に続いて設けられたグループワークでは、児童が熱心に意見を交わす光景が随所でみられた。

当日は、午前中に4年生、午後に5年生のそれぞれ約80人が体育館に集まり、講座とグループワークの時間が設けられた。大橋氏は、バイオガス発電の仕組みと再生可能エネルギーでの社会貢献、SDGs・3R・地球温暖化防止などの環境キーワードと生活とのかかわりについて、同社施設の話を変えて説明。児童からは「廃棄される食品から電気をつくる工場が地元にあるとは思わなかった。再生可能エネルギーをつくる工場が身近にあるなんて嬉しい」など驚きの声が聞かれた。

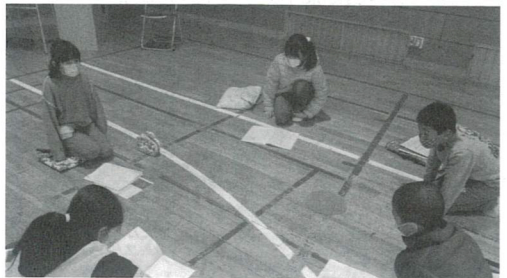
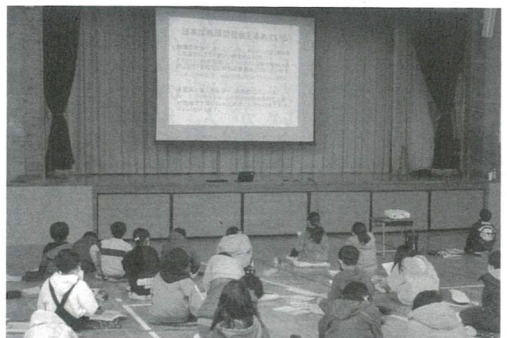
同校では、昨年度から海洋問題を切り口とした環境学習を取り入れ、児童が自ら問題意識をもって、自分たちに何ができるかを学んでいった結果、海洋汚染につながる陸の問題として、ごみ問題などにたどりついたという。当日のグループワークでも、最後に「いままでやってきた活動を見直し改善して取り組んでいきたい」など前向きな発表があった。

海東朝美校長は、「今回の環境講座では、一方通行の講義ではなく、児童が講義を聞いて考えたことについて意見を出し合う、これまでにない取り組みになった。ごみ拾いなどの日頃実践している活動だけでは解決しない問題への気づきにもなり、児童が自分たちの活動を見直すよい機会になったと思う」と意義を語った。

大橋氏は「児童が主体の新しいかたちの環境出張講座で、児童の意識の高さには本当に驚いた」と感想を述べ、「今後も羽村市で20年、30年にわたってバイオガス発電事業に取り組んでいくなかで、環境のことをいっしょに学んだ児童のなかから、将来1人でも当社に入社したいと思ってもらえるならと期待してしまう。子どもたちが将来、環境について日本だけでなく、世界に向けて発信していく人材に育ってくれば」と期待を込めた。



講義をする大橋会長。今後、他市町村からも要望があれば、同様の形式で環境出前講座を行いたいという



児童のようす。グループワークでは、活発な意見が飛び交った